

『転法輪経』和訳

サンスクリット語で、ダルマ・チャクラ・スートラ (Dharmacakrasūtra)
チベット語で、チューキ・コロ・ド (chos kyi' khor lo' i mdo)
(『転法輪経』)

一切智者に礼拝いたします

1

ある時、私はこのように聞いた。世尊（仏陀釈迦牟尼）はベナレス郊外の鹿野苑に住んでおられた。その時世尊は、五人の比丘たちに法を説かれたのである。

2

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『これは苦しみ〔が存在するという〕聖なる真理である』と思念して正しく心を集中させたところ、〔法〕眼、智〔慧〕、明〔知〕、知〔覚〕、覚〔醒〕（悟り）が生じた」（眼・智・明・知・覚）

3

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『これは苦しみである。これは苦しみの因である。これは苦しみの止滅である。これは苦しみの止滅に至る修行道である』と思念して正しく心を集中させたところ、眼・智・明・知・覚が生じた」

4

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみが存在するという聖なる真理（苦諦）を私は高度な知識によって完全に知るべきである』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

5

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみには因が存在するという真理（集諦）を私は高度な知識によって〔知り、苦しみの因を〕完全に捨て去るべきである』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

6

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみの止滅が存在するという聖なる真理を私は高度な知識によって知り、実現するべきである』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

7

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみの止滅に至る修行道が存在するという聖なる真理を私は高度な知識によって知り、修習するべきである』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

8

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみが存在するという聖なる真理を私は高度な知識によって完全に知った』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

9

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみの因が存在するという聖なる真理を私は高度な知識によって知り、〔苦しみの因を〕捨てた』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

10

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみの止滅が存在するという聖なる真理を私は高度な知識によって知り、実現した』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

11

「比丘たちよ、私が未だかつて聞いたことのない法（真理）について、『苦しみの止滅に至る修行道が存在するという聖なる真理を私は高度な知識によって知り、修習した』と思念して正しく心を集中させたことにより、眼・智・明・知・覚が生じた」

12

比丘たちよ、私が三転十二行相（三度にわたり十二行相を説いた）で説いたこの四聖諦によって眼・智・明・知・覚を生じない限り、私は諸天、世間の悪魔、梵天・沙門ゲジョン・婆羅門・人間とともにあるこの世界から自由を得て出離を得ることはなく、完全な自由と邪見を離れた心でとどまることもなく、比丘たちよ、『私は無上正等覚（阿耨多羅三藐三菩提）を実現して仏陀となった』と知ることはない。

13

比丘たちよ、私が三転十二行相で説いたこの四聖諦によって眼・智・明・知・覚を生じたなら、私は諸天、世間の悪魔、梵天・沙門ゲジョン（男性の出家者）・婆羅門・人間とともにあるこの世界から自由と出離を得て、完全な自由と邪見を離れた心でとどまり、比丘たちよ、『今から私は、無上正等覚（阿耨多羅三藐三菩提）を実現して仏陀となった』と知るのである。

14

世尊がこの法を説かれた時、尊者阿若・憍陳如（コンダンニャ）と八万の諸天たちは一切法について無塵で無垢なる法眼を生じたのである。

15

その時、世尊は尊者阿若（コンダンニャ）に尋ねられた。

「阿若よ、あなたは一切法を理解したか？」

〔彼は答えた。〕「世尊よ、一切を理解しました」

〔世尊は尋ねられた。〕「阿若よ、あなたは一切を理解したか？ 一切を理解したか？」

〔彼は答えた。〕「善逝よ、一切をよく理解しました。一切をよく理解しました」

「尊者阿若は一切法を理解したので、尊者阿若は〔この時より〕‘よく理解した阿若・憍陳如（ジュニャータ・コンダンニャ）’という別称を与えられた」

16

〔この時、〕「尊者阿若は一切法を理解した！」と天上の夜叉たちは一斉に歓声をあげた。そして、「友よ、世尊はベナレス郊外の鹿野苑で、沙門、婆羅門タムセ、諸天、魔、梵天のいかなる者もできなかった法に基づく方法で、三度にわたり、十二行相の法輪をまわされた。（三転十二行法輪）多くの人々を利益し、多くの人々に楽を与え、世間〔の人々〕に心からの愛と、諸天、人間たちの義のために利益し、楽を与えるために〔法輪を〕まわし、諸天を高め、阿修羅の一族を完全に衰退させた」と一斉に声をあげた。

17

地上の夜叉（ヤクシャ）たちの声を聞き、空を駆ける夜叉や、〔欲界の六欲天である〕四天王衆天（増長天・広目天・持国天・毘沙門天）、三十三天（須弥山の頂上）、夜摩天（時分天）、兜率天（弥勒仏が菩薩のお姿で説法をしている）、樂變化天（らくへんげ）、他化自在天（たげじざい）から、その刹那、その瞬間、その時、刹那、瞬間、時において梵天の世界にまでその声が聞こえた。

18

梵天の一族もまた、「友よ、世尊はベナレス郊外の鹿野苑で、沙門、婆羅門、諸天、魔、梵天のいかなる者もできなかった法に基づく方法で、三度にわたり、十二行相の法輪をまわされた。（三転十二行法輪）多くの人々を利益し、多くの人々に楽を与え、世間〔の人々〕に心からの愛と、諸天、人間たちの義のために利益し、楽を与えるために〔法輪を〕まわし、諸天を高め、阿修羅の一族を完全に衰退させた」と一斉に歓声をあげた。

19

世尊はベナレス郊外の鹿野苑で、三度にわたり、十二行相の法輪をまわされた。ゆえに、この法には『転法輪』という無上なる名が与えられた。

『転法輪経』が完結した。

【日本語試訳：マリア・リンチェン 2017年12月】

「三転十二行相」について

釈尊は「四つの聖なる真理（四聖諦）」を説かれた時、四つの真理をそれぞれ示転（じてん）・勸転（かんでん）・証転（しょうてん）という三つの段階にわけて、合計12回に考察する方法を示された。これを「三転十二行相」と言う。

示転：①これは苦である。②これは苦の因である。③これは苦の止滅である。④これは苦の止滅に至る修行道である。と、それぞれの四つの真理の本質を示すこと。

勸転：⑤苦を完全に知るべきである。⑥苦の因を完全に断つべきである。⑦苦の止滅を完全に現証（真実だと証明）するべきである。⑧苦の止滅に至る修行道を完全に修習するべきである。と、なすべき実践を示すこと。

証転：⑨苦を〔完全に知ったので、もはや〕知る必要はない。⑩苦の因を〔完全に断滅したので、もはや〕断滅する必要はない。11苦の止滅が存在すると〔完全に証明したので、もはや〕証明する必要はない。12苦の止滅に至る修行道を〔完全に修習したので、もはや〕修習する必要はない。と、結果の境地を示すこと。